

世界史研究推進委員会

共同研究「高大連携」および「世界史への興味・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

湘南高校 中山拓憲

はじめに～企画の中止とお詫び

2020年度は、新型コロナウイルス感染の状況下で例年通りの活動はできず、関係の先生方、いつも応援して下さいている先生方に大変ご迷惑をおかけしました。大きなところでは本委員会の最大のイベントである「高大連携の試み」の開催を断念しました。会場を借りる予定になっていた横浜市立商業高校の先生方、講師をお願いしていた大学や高校の先生方、参加を予定して下さいした先生方にはこの場を借りて謝罪させていただきます。申し訳ございませんでした。現時点(3月)では今年度の開催を予定しております。細かい内容が決定次第また報告させていただきますので、お待ちください。

他にも社会科部会の春季大会が中止になりました。アメリカ史の研究者である一橋大学の貴堂嘉之先生にご講演いただく予定でした。依頼させていただくときも、キャンセルをお詫びするときも快くご了承いただき感謝しております。貴堂先生には、状況が悪化しなければ、この『研究報告』が配布される日(春季大会当日)でご講演いただいているはずです。「移民国家アメリカの歴史」(岩波新書、2018年)や「南北戦争の時代 19世紀 シリーズアメリカ合衆国史②」(岩波新書、2019年)を執筆されており、人種の観点から見たアメリカの歴史についても様々発言されている貴堂先生のご講演は、まさしく昨今のアメリカ社会の歴史的背景を知る上でうってつけの講演となっているでしょう。

報告活動

一方で、様々な先生方の協力のおかげもあって、いくつかの会を開催できましたので報告させていただきます。開催できたのは会場校や協力して下さいした先生方のおかげです。この場をお借りして御礼申し上げます。例年は県内の高等学校を借りて委員会(例会)を行っています。しかし6月までの休校期間中には、オンラインでの開催を試みましたが、鎌倉学園高校の神田先生にご苦労いただき、スムーズに行うことが出来ました。画面越しではありましたが、久しぶりに歴史の話を思う存分できたのは、幸せな時間でした。とは言え、変則的な時間での開催となったり、課題もあり、様々な先生に不便をかけました。7月以降は学校も再開し、例年通りの形で委員会を開催することができました。そこではオンラインも同時開催で行うことを実施しましたが、オンラインでも対面でも参加しやすい状況を構築するのはかなり難しいことがわかり、この状況を継続するかは今後の検討を要します。また例会では、教科書執筆者を含む大学の研究者が高校の世界史教科書を分析した『歴史学者と読む高校世界史』をとり上げて読書会を行いました。現状の世界史教科書と研究状況の比較を通して、教科書の記述内容・課題等を述べる本でした。我々が継続して行ってきた「最新の研究成果の教材化」を考える上で良い材料を頂ける機会となったと思います。

その他にも、2020年10月の社会科部会秋季大会では鶴見高校の徳原拓哉先生が勤務校での国立教育政策研究所の教育課程指定研究について報告を行いました。また2021年3月の歴史分科会大会では、中山拓憲が三・一独立運動について報告させていただきました。レポートは本冊子に掲載されています。ご一読ください。

新型コロナウイルスに加え、新学習指導要領、共通テスト第1回と変化の多い1年でした。その変化に対応するため、多くの先生方が様々ご研修を重ねて成長しており、話を聞くたびに自分も頑張らなければと感じた1年だったとも言えます。様々な変化は今後も続きます。当委員会に参加してさまざまな対話を重ね、変化に対応していきましょう。ぜひ気軽な参加をお待ちしております。